

2. 自治体職員による調査結果の活用例

各市町村が住民ニーズを把握するための調査を実施した場合、次に必要となる作業は、行動計画の策定という観点から調査結果を分析することである。

ここでは、本研究会の「子育て環境調査」を実施した21市区町村のうち2つの自治体の職員が、それぞれの自治体に関する調査結果から子育て環境の現状と子育て支援に関する住民のニーズを読み取り、必要な施策を検討していく過程を示す。

なお、2つの自治体のうち、A市は大都市部の自治体であり、B市は非大都市部の自治体である。

自治体による読み取り事例—大都市部の自治体A市の場合—

1. はじめに

- 家庭やコミュニティの機能の変容、価値観やライフスタイルの多様化等により、子育て支援に係るニーズは増大してきている。これらのニーズに対応するためには、これに適した社会資源の整備・確保と活用のための仕組みづくりが求められる。そのためには、ニーズを持つ区民の属性や社会資源の状況を見極め、これらの地域特性にあわせて、実際に身近なところで利用しやすい環境をきめ細かく整備する必要がある。
- 子育て環境の計画的・効率的整備に役立てるため、今回の子育て環境調査結果の分析を試みることにする。もとより、回収率が低く、サンプル数も少ないため、データに偏りのあることが予想され、一定程度以上の細かい分析にはデータ自体が耐え得ないが、そうした場合についても、できるだけ想定される分析の方向性や手順について例示することを目指すことにしたい。また、今回は全国21自治体の集計データがあることから、全体集計との比較により明らかとなった本自治体の特徴についても、併せて示すこととする。
- これらにより、子育て支援のための目標設定から、これを実現する取り組み体系・体制の構築、また推進にあたって市民・事業者・行政に働きかけるためのストーリーづくり等に、この調査の結果を幅広く役立てることを目指す。

2. 調査票の構成

調査票の全体構成は、概ね次のように大別してとらえられる（下表参照）。

①属性

回答者（ここでは主として母親）の属性を尋ねる項目。

②子育て支援資源

子育て支援のために活用できる社会資源について尋ねている項目。

③ニーズ

子育て支援のニーズに関する内容について尋ねている項目。

④意向・主観的評価

回答者の意向や主観的評価について尋ねている項目。

大分類	中分類	対応する質問	質問内容
属性	父母の別	1	回答者は父か母か
	子どもの数・年齢・性別	2	ひとりひとり全員について記入
	出産前の職業	11	常勤・パート・自営・学生・その他
	住宅	31・32	種別・面積・満足度・理由(複数回答)
	転入後年数	40	0~1,1~3,3~10,10~20,20~
	年収	50	主たる生計維持者・世帯全体
子育て支援資源	家庭の子育て体制 (続柄・年齢・従事時間)	3	父母は職種と帰宅時間も
	父親の子育て参加	4・5	希望・実際・満足度(母親)
	地域の子育て支援 (体制と内容)	6・23・25	交流度、頼める人の有無と内容(母親)、日常助けられている人
	職場の子育て支援	12・13・14	出産に伴う転退職・育休
	保育サービス	16・17・18・19	利用有無・理由、満足度・理由
	幼稚園	20・21・22	利用有無・理由、満足度・理由
	行政サービス	35・36・37	不満な点、サービス種類・満足度
	遊び場	27・28・29・30	遊び場有無・満足度・問題点
	情報メディア	10	子育て情報の入手経路
住民参加	38・39	参加意欲と形態	

ニーズ	子育ての不安・悩み	9	不安や悩み(複数回答)
	子育てと仕事の両立	15	大変な点(2つまで)
	住宅環境	33・34	満足度・理由(複数回答)
	子育てしにくい理由	42	理由(3つまで)
	子育て支援策要望	47・51	充実を望む策(複数回答)
	(支援に対する満足度)	※	
評価(結果変数)	子育ては楽しいか	7・8	楽しさ度・よかったこと(複数回答)
	息抜きできる時間	24	有無(頻度)
	地域に支えられている	26	支えられていると思う度合
	子育てしやすい地域か	41	しやすいと感じる度合
	産みたい子どもの数	48	今後産みたい数・度合
	子どもの育ち満足度	49	満足度
その他	前住地比較	43・44・45・46	

※「子育て支援資源」の満足度等に関する質問項目は、改善を要する個所を明らかにしている点で、ニーズ把握のための指標となりうる。

3. 単純集計による分析

(1) 視点

- 各質問別に回答を分類・整理することにより、多くのことがわかる。母親の職の有無、父親の子育て参加の現況、親族や隣人・友人による子育て支援の状況、各種サービスの認知度・利用度・満足度・今後の利用意向等は、自治体にとって特に興味深い点とすることができる。今回は全体集計とA市分のみの集計を比較することができたので、(2)のような地域特性を改めて確認することができた。
- むしろ全体集計とA市分集計は、各回答の比率・順位等についてよくそろっており、当初予想していたような都市部とその他の地域の違いはさほど顕著には見受けられなかった。このことが全国の均質化が進んでいることの証左であるのか、回収率が低かったことによるデータの偏りの影響なのか、たまたまなのかはわからない。

(2) 単純集計により判明した地域の特性

- 子育てについての情報(Q10)をインターネットから得ている人の比率が1.7倍。
- 仕事と両立させる大変さ(Q15)で「保育園等が見つからない」の比率が2.1倍
- 保育所を利用していない理由(Q16)で「保育料が高いから」の比率が0.12倍
- 保育所に満足できない理由(Q19)で「保育時間が短い」の比率が2.2倍
- 幼稚園を利用していない理由(Q20)で「教育料が高いから」の比率が0.32倍
- 子どもの遊び場に対する満足度(Q28)で「満足・非常に満足」の比率が1.8倍
- 子どもの遊び場について日頃感じていること(Q29)で「近くに遊び場がない」の比率が0.48倍
- 住んでいる市区町村は子育てしやすいと感じるか(Q41)で「感じる・非常に感じる」の比率が1.5倍
- 小児救急医療は比較的よく知られている。
- 児童館の認知度・利用度が高い。
- 子育てグループ活動は知られている割に利用が少ない。
- ファミリーサポート、子育て支援、家庭教育学級、子育て情報サービスは認知度・利用度とも低い。特に子育て情報サービスの認知度が低いのは問題。
- 健診時家庭教育講座は認知度の割に利用率が高い。健診等の際に、ニーズが高いと思われる市民について、直接利用の働きかけ(説明・助言)を行うことが、その後の利用に結びついていると考えられる。
- 子育て総合相談、子育て情報サービスは、認知度が低い割に「今後利用したい」が多い。

(3) 分析結果の取り組みへの反映（例示）

- 子育て情報サービスにEメール、ホームページを積極的に活用する。
- 保育料を値上げしても、延長保育サービスを推進する。
- 遊び場環境の保全（特に安全確保）に努める。
- 「子育てしやすい」の要因を主要施策として推進。
- 児童館の認知度・利用度が高さを活かして、情報提供やニーズ把握、相談の場等、子育て支援の身近なサービス拠点、市民の子育て支援活動の場としての活用等を進める。
- 子育てグループ活動のニーズは恒常的にあると考えられることから、利用の障害となっている要素（例 活動場所・日時が限られている、「排他的」など参加しにくい雰囲気がある 等）を把握し、改善を図る。
- ファミリーサポート、子育て支援、家庭教育学級、子育て情報サービス等、日常的にニーズの発生するサービスでありながら認知度・利用度の低いものについては、周知方法や情報メディアの見直しを進め、認知度の改善を図る。
- 健診等で集まる機会を活用して、他のサービスへのアクセスを改善する仕組み（チェックシート等）を開発する。
- 子育てで総合相談、子育て情報サービス等、認知度が低い割に「今後利用したい」が多いサービスについては、区民への情報提供やアクセスの改善を図る。

4. クロス集計による分析に向けて

(1) もう1人産むか、それとも産まないか

- 自治体にとって、さらに興味深いのは、「意向・主観的評価」の部分である。というのは、これらを望ましい方向にシフトさせることが自治体の取り組みの目標となるからだ。例えば、少子化の解消と特に関わりの深い問48「これから何人子どもを産みたいと思っていますか」を見てみよう。

回 答	A 市集計	全体集計
(もう) 産むつもりはない	50.4%	52.3%
(あと) 1人	43.1%	40.3%
(あと) 2人	5.3%	7.1%

- A市の場合、「(もう) 産むつもりはない」が全体集計より低く、「(あと) 1人」は高いことがわかる。これ自体は望ましい結果であるが、これをさらに高めたいと考えた時に、これだけではどうしたらよいかかわからない。

(2) 子育てを楽しんでいるか

- 最近、子育てに対する負担感やストレスが注目されてきている。確かに「子育てが楽しくない」となれば、「もう1人産みたい」という気持ちにはなりにくいだろう。そこで問7「子育てを楽しんでいると感じていますか」とのクロス集計を取ったのが下表である。

		子育ての楽しさ					合 計
		全然楽しくない	楽しくない	どちらでもない	楽しい	とても楽しい	
出 産 意 欲	現在1人	0.0%	7.1%	23.8%	52.4%	16.7%	100.0%
	出産予定無	1.2%	5.3%	22.9%	49.4%	21.2%	100.0%
	現在1人	0.0%	3.6%	15.7%	54.3%	26.4%	100.0%
	出産予定有	0.4%	1.8%	16.2%	55.4%	26.2%	100.0%
	現在2人	0.0%	0.7%	19.0%	69.3%	10.9%	100.0%
	出産予定有	0.0%	0.9%	19.1%	58.4%	21.6%	100.0%
現在2人	0.0%	2.5%	18.4%	59.8%	19.3%	100.0%	
出産予定無	0.4%	2.1%	21.0%	57.2%	19.3%	100.0%	

※上段数値＝A市のみの集計 下段数値＝全体集計

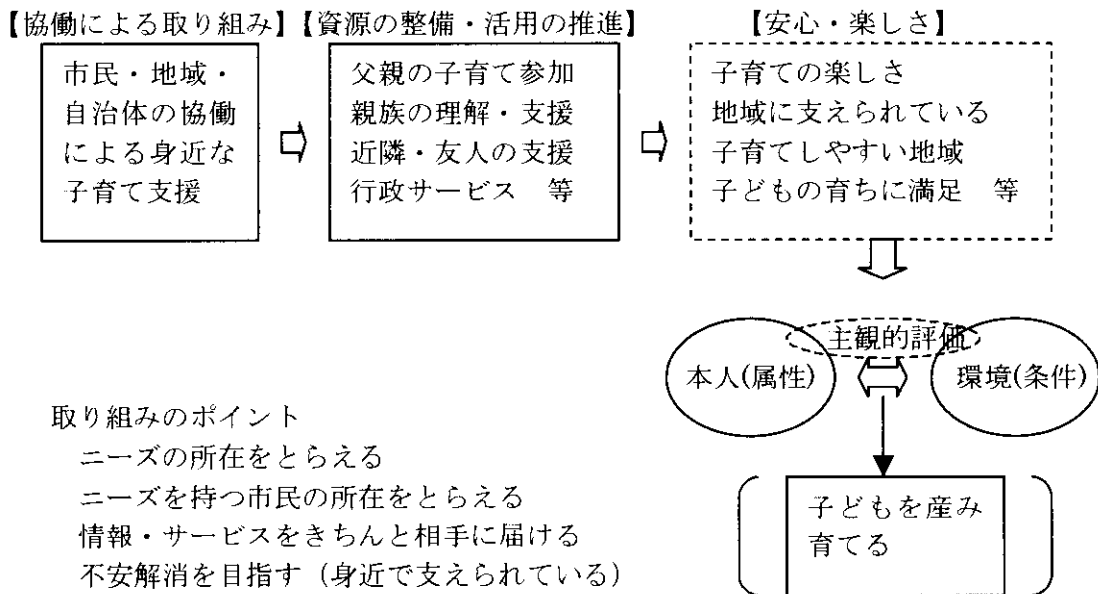
- 「子育てを楽しんでいると思う気持ち」が「もう1人産みたい」という意向を後押ししていることがわかる。なお、ここで現況子ども数を1人ないし2人の場合に限ったのは、

現況子ども数が多くなればなるほど、「もう1人産みたい」という意向にとって制約となることが予想されたためである。実際、現況子ども数が1人の場合と2人の場合を比較すればそのことが検証される。

(3) 取り組みモデルの設定

- 現況子ども数以外にも、父母の年齢、収入、住居の狭さ等、「もう1人産みたい」という意向を制約する条件は多数存在する。学術研究であれば、様々な要因間の相関関係を分析し、それぞれの要因単独の影響を明らかにすべきところであるが、自治体の取り組みを検討する場合、必ずしもそこまでの分析が求められるわけではない。なぜなら、また、子どもを産み育てるにあたっての評価・判断・行動のプロセスは、もともと私的で主観的なものであり、自治体の取り組みの中で完結してしまうようなものではないからである。
- 例えば、健康づくり施策においては、自治体が単独で健康上の問題点について指導・助言を行う方式から、「ヘルス・プロモーション」を合言葉に、個々人の自主的な取り組みを周囲の人たち（市民）、専門家・事業者、自治体等が協働して支援し、「主観的健康感」を高めることを目標とする方式へと転換してきている。子育て支援についても、家庭、地域、事業者・専門機関、自治体等の協働により、「子育ての楽しさ」、「子育てしやすい地域」等を目標としていくことが考えられる（モデル図参照）。

モデル図



5. クロス集計による分析

(1) 主観的評価に注目した分析（例示）

①父親の家事・育児参加への満足度

「父親の家事・育児参加への満足度」が上がるにつれ、「子育ての楽しさ」が増しており、「子育ての楽しさ」にとって、父親の参加が重要な要因であることがわかる。

		子育ての楽しさ					合計
		全然楽しくない	あまり楽しくない	どちらでもない	楽しい	とても楽しい	
父親の育	非常に不満	0.0%	9.1%	9.1%	68.2%	13.6%	100.0%
	不満	4.5%	4.5%	23.4%	56.8%	10.8%	100.0%
の	非常に不満	0.0%	5.1%	29.1%	51.9%	13.9%	100.0%
	不満	0.6%	5.2%	28.4%	49.5%	16.4%	100.0%

児 参 加	どちらで もない	0.0%	1.3%	22.1%	64.9%	11.7%	100.0%
	満足	0.3%	2.0%	25.4%	59.8%	12.5%	100.0%
満 足 度	満足	0.0%	1.7%	14.0%	66.1%	18.2%	100.0%
	非常に満 足	0.0%	0.3%	17.9%	61.9%	20.0%	100.0%
	非常に満 足	0.0%	0.0%	6.5%	47.8%	45.7%	100.0%
	満足	0.0%	1.2%	9.6%	49.2%	40.0%	100.0%

※上段数値＝A市のみの集計 下段数値＝全体集計

②「地域に支えられている」感じ

①と同様に「地域に支えられている」感じが、「子育ての楽しさ」や「子育てしやすい地域」にとって重要な要因であることがわかる。

		子育ての楽しさ					合 計
		全然楽し くない	楽しくな い	どちらで もない	楽しい	とても楽 しい	
地 域 に 支 え ら れ て い る	全然思わ ない	0.0%	9.1%	33.3%	54.5%	3.0%	100.0%
	あまり思 われない	2.6%	7.0%	35.5%	42.5%	12.3%	100.0%
ど ち ら で も な い	どちらで もない	0.0%	1.0%	17.1%	66.7%	15.2%	100.0%
	思う	0.5%	2.9%	21.4%	60.2%	15.0%	100.0%
思 う	どちらで もない	0.0%	1.3%	21.5%	54.4%	22.8%	100.0%
	思う	0.0%	0.9%	20.8%	60.2%	18.1%	100.0%
非 常 に 思 う	思う	0.0%	1.7%	14.4%	61.0%	22.9%	100.0%
	非常に思 う	0.1%	0.7%	17.2%	57.4%	24.5%	100.0%
	非常に思 う	0.0%	6.3	12.5%	43.8%	37.5%	100.0%
	思う	0.0%	2.1%	13.5%	46.9%	37.5%	100.0%

		子育てしやすい地域である					合 計
		全く感じ ない	感じない	どちらで もない	感じる	非常に感 じる	
地 域 に 支 え ら れ て い る	全然思わ ない	8.8%	14.7%	38.2%	38.2%	0.0%	100.0%
	あまり思 われない	18.2%	29.0%	35.9%	15.2%	1.7%	100.0%
ど ち ら で も な い	あまり思 われない	1.9%	23.1%	32.7%	40.4%	1.9%	100.0%
	どちらで もない	4.6%	27.5%	42.2%	24.0%	1.7%	100.0%
思 う	どちらで もない	1.3%	20.3%	26.6%	45.6%	6.3%	100.0%
	思う	1.8%	17.2%	49.3%	30.2%	1.5%	100.0%
非 常 に 思 う	思う	0.8%	10.9%	17.6%	59.7%	10.9%	100.0%
	非常に思 う	1.2%	13.7%	30.5%	48.2%	6.4%	100.0%
	非常に思 う	0.0%	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%	100.0%
	思う	1.0%	10.4%	27.1%	41.7%	19.8%	100.0%

※上段数値＝A市のみの集計 下段数値＝全体集計

(2) 対応すべきニーズの洗い出しに向けて (分析手順の例示)

①母親の職の有無との関係

パート、自営、無職（専業主婦）に比べ、より子育てと仕事の両立の問題を抱えているはずの常勤の方が「子育ての楽しさ」においてむしろ高くなっており、特に無職（専業主婦）の場合、全然楽しくない+楽しくないの比率が常勤の3倍以上に及んでいる。

		子育ての楽しさ					合 計
		全然楽し くない	楽しくな い	どちらで もない	楽しい	とても楽 しい	
常 勤	常勤	0.0%	2.7%	10.8%	54.1%	32.4%	100.0%
		0.3%	0.6%	10.9%	60.3%	27.9%	100.0%

母親の職	パート	0.0%	0.0%	21.1%	63.2%	15.8%	100.0%
		0.5%	1.0%	24.4%	61.7%	12.4%	100.0%
	自営	0.0%	0.0%	5.0%	80.0%	15.0%	100.0%
		0.0%	2.5%	23.0%	59.0%	15.6%	100.0%
	無職	0.0%	2.8%	20.6%	58.9%	17.8%	100.0%
		0.5%	2.5%	21.9%	56.3%	18.7%	100.0%

※上段数値＝A市のみの集計 下段数値＝全体集計

②「地域に支えられている」感じ

「子育ての楽しさ」の要因のひとつである「地域に支えられている」感じについても、やはり常勤が高い。特にパートは地域に支えられていると思う＋非常に思うの比率が、常勤の約半分にとどまっている。

		地域に支えられている					合計
		全然思わない	あまり思わない	どちらでもない	思う	非常に思う	
母親の職	常勤	8.1%	32.4%	16.7%	35.1%	8.1%	100.0%
		6.4%	26.4%	22.2%	38.6%	6.4%	100.0%
	パート	16.7%	33.3%	27.8%	22.2%	0.0%	100.0%
		11.5%	26.5%	38.5%	19.0%	4.5%	100.0%
	自営	5.3%	36.8%	5.3%	47.4%	5.3%	100.0%
		5.8%	28.9%	30.6%	32.2%	2.5%	100.0%
	無職	10.3%	25.7%	26.6%	34.6%	2.8%	100.0%
		10.6%	28.0%	29.2%	28.3%	3.8%	100.0%

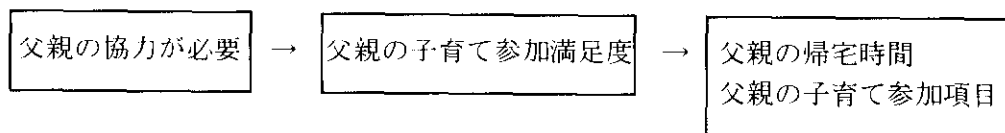
※上段数値＝A市のみの集計 下段数値＝全体集計

③子育てニーズとニーズを抱えた市民の所在

「子育ての楽しさ」、「地域に支えられている」感じのいずれも常勤よりも低いことから、パート、自営、無職の母親は、地域で孤立しながら子育てに対する負担感やストレスを増していると想定される。常勤の母親を対象とした保育サービス以外に、その共働き以外の子育て家庭を対象とした身近な子育て支援の取り組みが必要なことがわかる。

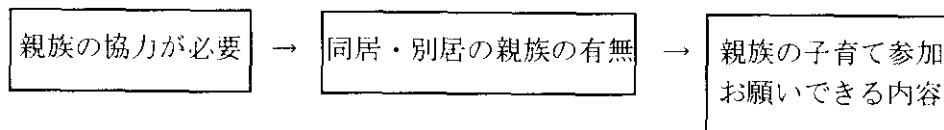
④さらに細かいニーズの把握について（手順の例示）

パート、自営、無職の母親について、「子育てが楽しくない」との課題があり、その背景として「地域に支えられていない」ことがわかった。周囲に支えられることなく、ひとりで子育てしなければならないことが、負担感、ストレス、不安等を高め、子育ての楽しさを奪っていると考えられる。それでは「地域に支えられている」と感じられるようにするためには、どうしたらよいだろうか。



※父親の子育て参加に対する満足度を高めるにはどうしたらよいか。

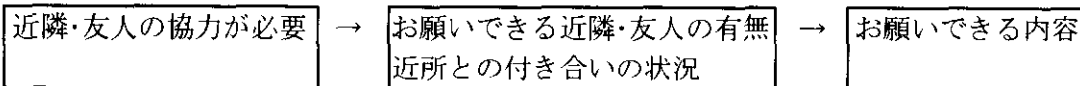
帰宅時間や子育て参加項目との関連を調べ、データとともに市民に協力を提言する。



※親族の協力を引き出すためにはどうしたらよいか。

活用可能な社会資源（同居・別居の親族の有無）の現況を確かめる。

資源と活用状況の関係を調べ、データとともに市民に協力を提言する。



※近隣・友人の協力を引き出すためにはどうしたらよいか。

活用可能な社会資源（同居・別居の親族の有無）の現況を確かめる。

資源と活用状況の関係を調べ、ミスマッチの原因を探る。

ミスマッチの解消のための支援の仕組みづくり（保険制度、仲介制度等）を整備するとともに、データとともに市民に協力を提言する。

6. 調査及び調査票に関する課題

(1) 調査票回収率の低さに対する反省

○今回の子育て環境調査の調査票回収率は、全体で1/4程度にとどまっており、A市においても乳幼児健康審査時に、協力の了解を得ながら手渡しで配布したにもかかわらず、ほぼ同程度しか回収できなかった。回収率が下がると、それだけ回答者層が偏ることが想定され、正しく現況、ニーズを把握することができなくなる。

○今回の場合、回収率が低かったことの要因として、次の3つが考えられる。

- ・調査の意義や調査結果の活用方法について事前の説明・周知が不充分だったこと
- ・その場で記入してもらうのではなく、自宅での記入・郵送方式としたこと
- ・調査票の質問項目が多く、調査票も厚くなったこと

ここでは3つ目の要因について、調査結果分析のプロセスを踏まえて考察する。

(2) 調査票の改善① 質問項目の簡略化

○今回の調査票質問項目のうち、次の質問項目については結果の活用（施策等への反映）が難しいと感じられた。調査票の構成について再考する必要がある。

問	質問内容	活用しにくい理由
8	子どもがいてよかったと思うこと	これに基づく対応が浮かばない
9	子育てで不安に思っていること	不安の度合いがわからない
37	子どもサービス認知度・満足度等	細分化しすぎて結果反映の融通が利かない
43	前住地での子育ての有無	前住地が特定できないため比較にならない
44	前住地との子育てしやすさの比較	同上
45	前住地との施策・環境の違い	同上
46	同上（悪くなった場合）	同上
47	子育て支援策要望	これまでの回答とは関係なく要望が出てくる

○子どもや親の年齢、住居や所得の関係等の本人属性については、今回の読み取りでは用いなかったが、「若い母親の方が相談相手が少なく、子育てに対する不安感・ストレスが高い」とか、「同じ子ども2人でも、二人とも幼稚園以前の場合、特に子育てに対する負担感が高い」等の分析が可能であり、ニーズの所在の把握、ニーズを持つ市民へのアクセス経路や対応方策の検討に資するものと考えられる。父親の子育て参加状況（希望と実際）、家庭や地域の子育て支援体制等も、父親の子育て参加に対する満足度や「地域に支えられている感じ」といった結果指標とクロスすることにより、どの項目が結果指標と関連が深いかを確かめることができ、市民への啓発・働きかけを組み立てるうえで有用である。

(3) 調査票の改善② 質問項目の変更・追加

○前述したように、A市の調査結果と全国集計は驚くほどそろっている。このことは、この読み取りで掲げたクロス集計についても基本的に変わらない。社会資源面では当然異なりながら、主観的評価に基づくニーズ分析の結果が似通ってくるということは、従来に比べ地域によるライフスタイルの差がなくなってきたことに加え、テレビ・新聞・雑誌等のマスコミの媒介により、子育てに対する意識・価値観が全国共通になってきているのではないかと想定される。換言すれば、子育て支援のニーズは子育ての負担感・ストレス・不安といったメンタルなものから生まれているということでもある。

- 今回の調査票では、問9「子育ての不安や悩み」、問24「子育てを離れて息抜きできる時間」等が、そうしたメンタルな面を探っているものだが、前者は不安の度合いを訊いていないため、また後者は質問の仕方が悪かったのか「ない」に回答が集中してしまい（同様に母親の子育て従事時間についても「24時間」との回答が多かった）、どちらも有効な分析ができなかった。指標スケールを導入する等の改善が望まれるところである。